

令和 5 年度

海南省地域防災活動支援事業 実績報告書

(亀川地区)



海南省

CONTENTS

概要

1	事業の趣旨	1
2	地域の概要（特性・課題）	1
3	事業の目的	2
4	事業の実施体制	2

重点地区（亀川地区）防災訓練 事前研修会

1	概要	3
---	----	---

重点地区（亀川地区）防災訓練

1	概要	4
2	訓練の様子	5
3	アンケート（地域関係者）	13
4	アンケート（中学生）	14

福祉避難所における訓練

1	概要	15
2	訓練の様子	15

亀川小学校防災学習

1	概要	16
2	実施風景	16

市民一斉防災訓練

1	概要	17
2	訓練結果	17
3	訓練ポスター・チラシ	18
4	訓練の様子	19

防災研修会

1	第1回防災研修会	21
2	第2回防災研修会	22

概要

1. 事業の趣旨

人口減少や高齢化、地域の担い手不足が進む中、甚大な被害が想定される南海トラフ地震、豪雨等の大規模災害に備え、東日本大震災や西日本豪雨災害といった過去の大規模災害の被災者や支援者から直接話を聞き、その知見や教訓を本市の地域住民、学生、支援者が「対話」で紡ぎ、新たな連携・協働を創出する。

今回は、市内全域を対象とした訓練に加え、地震・津波災害を想定した取組の重点地区を内陸部の亀川地区とし、地元中学生や高校生、大学生等の地域の将来を担う若い世代と、自治会・自主防災組織、消防団、防災士等の地域関係者、企業等の支援者による避難所設置訓練や、高齢者、障害者、妊産婦、乳幼児等に配慮した避難所運営について検討する「考える訓練」を実施。

加えて、小学生を対象とした福祉防災学習や、市内全域の自治会・自主防災組織を対象とした防災研修会を実施し、被災後も持続可能な地域づくりを目指し、将来に向けた地域連携の促進や新たな担い手の育成、地域防災力の強化を図る。

2. 地域の概要（特性・課題）

本市は、西側に紀伊水道を臨んでおり、最大規模の被害が想定されている南海トラフ巨大地震においては、最大8mの津波高、平均津波6mが予想され、死者4千人、建物全半壊率58%の甚大な被害が想定されている。

「地震・津波災害を想定した取組」の重点地区として今回訓練を実施する「亀川地区」は、南海トラフ地震における津波浸水想定区域外に位置しており、緊急輸送道路である阪和自動車道の海南東ICが近いことや、県庁所在地の和歌山市に通じる県道136号線により、利便性が良く、避難者や支援者を受け入れるのに適した地域である。

また、同地区には、小・中学校や公民館の市指定避難所、要配慮者を受け入れる市指定福祉避難所があり、災害対策本部及び復旧・復興拠点でもある海南市役所、本市の災害時の受援拠点である海南市総合体育館や災害ボランティアセンターとなるわんぱく公園など、多くの防災上の重要な公共施設が隣接している。

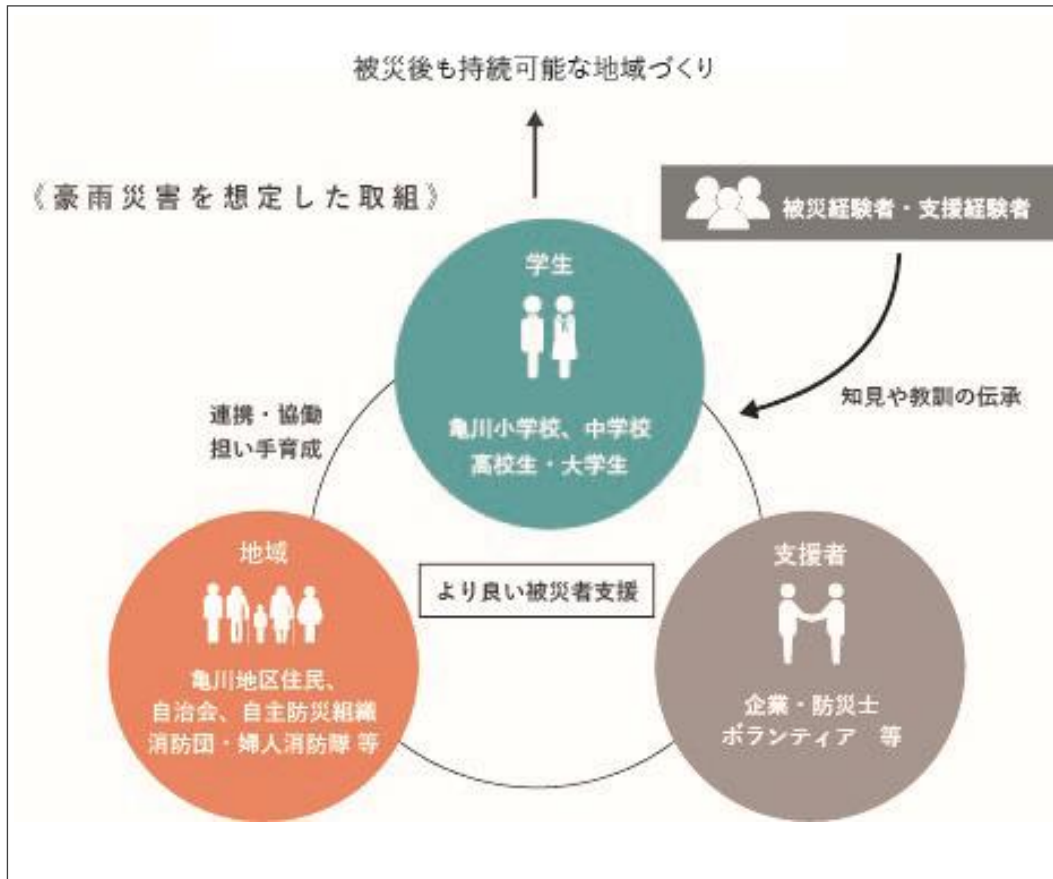
また、亀川地区の高齢化率は27.1%と本市全体よりも10.5%低く、他地域に比べ、比較的若い世代や共働きの世帯が多い。災害発生時の初動段階、避難生活、復旧・復興において、被災者を守るために非常に重要な役割をもつ地域であり、担い手の育成、関係者や支援者の連携強化など、多様な視点から地域防災力の強化が求められている。

3. 事業の目的

世代や立場を超えて、それぞれの視点を持ち寄り、研修会を通じて、一緒に「より良い被災者支援」を考えることで、被災後も持続可能な地域づくりを目指し、将来に向けた地域連携の促進や新たな担い手の育成、地域防災力の強化を図ることを目的とする。

4. 事業の実施体制

教育・啓発、訓練により、関係者を対話で紡ぐ取組



重点地区（亀川地区）防災訓練 事前研修会

1. 概要

11月12日に実施する重点地区防災訓練で、グループワークのファシリテーターとして参加する県立海南高校生、市内在住の防災士の皆さんを対象に事前研修会を実施しました。

日時：令和5年10月26日（木）午後5時00分～

会場：海南市役所 会議室3A

参加者：県立海南高等学校生徒 22人

防災士 6人

内容：1. 訓練説明（内容・役割について）

2. 段ボールベッド、ワンタッチパーティションの組み立て

3. グループワーク



重点地区（亀川地区）防災訓練

1. 概要

訓練では、東日本大震災発災時、岩手県釜石市立釜石東中学校 3 年生で、「釜石の奇跡」と言われる津波災害からの避難を経験された菊池のどか氏の講話をはじめ、中学生を対象とした防災ブース体験、地域関係者と中学生・高校生等による避難所設置訓練、避難所運営等についてのグループワークを実施し、南海トラフ地震に備え、連携の強化と地域防災力の促進を図りました。

日時：令和 5 年 11 月 12 日（日）午前 9 時 00 分～

会場：海南市立亀川中学校（海南市且来 990）、福祉避難所等

内容：【午前の部】

○講話 菊池のどか氏

「南海トラフ地震に向けて学生ができること～東日本大震災の経験を通じて～」

○防災ブース体験 ・消防資機材の説明、消火体験

・要配慮者避難誘導体験

・新聞紙スリッパ作成体験

・非常用トイレ作成体験

【午後の部】

○講話 菊池のどか氏「地域と学生の連携について」

○災害関連死を防ぐための避難所設置訓練

①段ボールベッドの組み立て

②仮設トイレスペースの設置

③更衣室、授乳スペースの確保

○学生と地域関係者によるグループワーク

参加者：【午前の部】 237 人

内訳）亀川中学校生徒（180 人）、消防団亀川分団（6 人）、県立海南高等学校生徒（22 人）、海南市社会福祉協議会（5 人）、株式会社サンコー（3 人）、海南市ボランティア連絡協議会（20 人）、和歌山県海草振興局（1 人）

【午後の部】 講話参加者 261 人（訓練、グループワーク参加者 138 人）

内訳）亀川中学校生徒（180 人）、亀川地区自治会・自主防災会（36 人）、婦人消防隊（5 人）、亀川公民館（2 人）、県立海南高等学校（22 人）、防災士（6 人）、株式会社サンコー（3 人）、市内郵便局（3 人）、海南市社会福祉協議会（3 人）、和歌山県海草振興局（1 人）

2. 訓練の様子

【午前の部】

2.1 講話

菊池のどか氏を講師に迎え、「南海トラフ地震に向けて学生ができること～東日本大震災の経験を通じて～」をテーマに、亀川中学校生徒に対し講話いただきました。



菊池 のどか 氏

1995 年生まれ。岩手県釜石市出身。釜石市立釜石東中学校 3 年生当時、東日本大震災が起こり津波災害からの避難を経験。被災後は語り部活動を始めるが、語ることに違和感を持ち、一度防災から離れ、地域文化の保存や植生学、地理学等の環境分野について学んだ。

大学卒業後、かまいし DMC に入社し、いのちをつなぐ未来館で、震災時の経験のガイドや防災に関する展示を製作する職に就き、現在はフリーランスとして語り部や観光ガイドを行っている。



▶講話の様子

2.2 防災ブース体験

地元の消防団や高校生、企業、社会福祉協議会が講師となり、中学生が体験をしながら防災について学ぶ取組を行いました。同じ地域に暮らす大人から子どもたちに伝えることにより、地域連携の促進や次世代に向けての新たな担い手の育成を図りました。

①消防団亀川分団：消防資機材の説明、消火体験



②海南市社会福祉協議会：要配慮者避難誘導体験



③株式会社サンコー：非常用トイレ作成体験



④県立海南高校生：新聞紙スリッパ作成体験



2.3 炊き出し訓練

災害時の避難生活において、食事は栄養バランスがよい温かいもの、アレルギーに配慮したものが必要であり、支援物資だけでは栄養バランスが偏ることや、支援が入らない等の問題が想定されます。今回の訓練では、そうした課題を想定した取組として、海南市ボランティア連絡協議会との連携により、炊き出し訓練を実施しました。



【午後の部】

2.4 講話

菊池のどか氏より、「地域と学生の連携」をテーマに講話いただきました。



2.5 災害関連死を防ぐための避難所設置訓練

2016年に発生した熊本地震では、災害関連死が221人にのぼり、地震による直接的な死者の4倍超だったことから、避難生活の環境を改善する取り組みが求められています。

今回の訓練では、「災害関連死」を防ぐための取り組みとして以下の内容を実施しました。

①段ボールベッド、ワンタッチパーテーションの設置

体育館の床に雑魚寝では、低体温症、生活不活発病、肺炎などの危険性が高まることから、段ボールベッドを設置し、エコノミークラス症候群対策に取り組みました。また同時にワンタッチパーテーションを設置することで、避難者のプライバシーの確保を図りました。



②仮設トイレスペースの設置

「トイレ」が不便だと被災者が水分の摂取を控え、エコノミークラス症候群や脱水症などを招くことや、不衛生から感染症がまん延する恐れがあります。

訓練では、生活用品の開発・製造・販売を手掛ける株式会社サンコーと連携し、災害用トイレスペースを設置しました。



③更衣・授乳スペースの設置

更衣室と授乳スペースを設置し、女性・子どもの安心の確保を図りました。



2.6 グループワーク

県立海南高校生がファシリテーター、防災士の皆さんがファシリテーター補助として参加いただき、地域関係者と中学生が避難所運営等について考えるグループワークを実施しました。



～課題①～

あなたとグループのメンバーが避難所運営協力者に任命されました。今後1か月間、避難所全体でどんな問題や課題が出てくるか考えてください。配慮が必要な避難者として、乳幼児・幼稚園児・小学生・足が悪い高齢の男性・車いすの女性がいます。

【グループワークで出された主な意見】

経過時間	災害発生～3日後	3日後～2週間後	2週間後～1か月後
問題・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・人が密集する ・感染症対策 ・体調不良者への対応 ・プライバシーの確保 ・情報の入手方法 ・生活騒音 ・睡眠不足 ・ミルクやおむつの不足 ・要配慮者の生活空間の確保 ・ペットの扱い ・熱中症による脱水症状（夏） ・暖房器具、毛布の不足（冬） ・避難場所の浸水（大雨） ・衛生環境の悪化 	<ul style="list-style-type: none"> ・要配慮者への支援 ・衛生環境の悪化 ・肉体的、精神的ストレス ・運動不足、睡眠不足 ・情報発信手段の確保 ・家族の安否確認 ・生活ごみへの対応 ・貴重品の管理 ・衣類の洗濯ができない ・お風呂に入れない 	<ul style="list-style-type: none"> ・衛生環境の悪化による食中毒の発生 ・生活リズムの違いによるストレス ・栄養不足 ・子供たちの学習環境の確保 ・生活再建に向けての不安 ・要配慮者への支援 ・持病がある人が治療を受けれない

～課題②～

より良い避難生活を送るために絶対に必要な3つのルールを考えてください。

【グループワークで出された主な意見】

- ・役割分担をする
- ・他人のプライバシーを侵害しない
- ・お互いの生活空間を尊重する
- ・コミュニケーションを大切にする
- ・他人のことを考えて行動する
- ・自分の所持品は各自で管理する
- ・ゴミを減らす
- ・禁酒・禁煙
- ・嫌なことを言い合える関係を作る
- ・何事も協力し合う
- ・要配慮者を支援する
- ・報告・連絡・相談
- ・共有スペースはきれいに保つ
- ・リーダー制を導入する
- ・運動の時間を作る
- ・健康状態により避難スペースを分ける

～課題③～

いざというときに備え、普段から地域の中でできることを考えてください。

【グループワークで出された主な意見】

	防災活動（例：非常持出品の準備を啓発する）	災害時に役立つ取り組み （例：あいさつをする、祭りに参加する）
高校生	<ul style="list-style-type: none"> ・避難場所、避難経路の確認 ・避難が難しい人の把握 ・危険な物や壁等を撤去する ・ハザードマップの確認 ・家具の固定 	<ul style="list-style-type: none"> ・自宅周辺の掃除 ・地域の行事に参加する ・遊びに行くときは家族に言うしておく ・近所の人とコミュニケーションを取る ・ボランティア活動に参加する ・身体が不自由な人への理解を深める
大人	<ul style="list-style-type: none"> ・要介助者の把握 ・避難した後の連絡方法の共有 ・電気自動車など自家発電設備の保有者の把握 ・安否確認のルールの取り決め ・防災倉庫の中身の把握 ・家具の固定 ・ハザードマップの確認 ・避難場所、避難経路の確認 ・防災訓練の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・各世帯の家族構成の把握 ・近所同士コミュニケーションをとる ・地区でライングループ等を作成する ・普段の会話の中に防災の話題をいれる ・地域の資源（井戸等）を知っておく ・地域の行事に参加する
中学生	<ul style="list-style-type: none"> ・食料品の準備 ・避難場所、避難経路の確認 ・ハザードマップの確認、避難地図の作成 ・防災に関する勉強会の実施 ・家具の固定 ・災害時の避難場所を決めておく ・防災訓練への参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・近所の人と顔見知りになる ・地域の行事に参加する ・小さい子どもたちとコミュニケーションを取っておく

2.7 グループワーク発表

中学生が発表者となり、各グループで話し合った内容を全体で共有しました。



2.8 感想発表

菊池氏

「このように普段から地域の皆さんが顔見知りの関係を築いておくことは、いざという時のためにとても大切なことだと思います。今日をきっかけに、災害に対して何を準備しなければならないのか、自分や大切な人の命を守るために、日頃から備えるということに目を向けていただければと思います。」

中学生

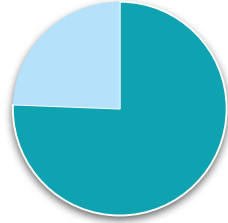
「実際に地震や津波を経験された菊池さんのお話を聞くことができ、当時の状況や困難だったこと、何を感じていたかなど、よく知ることができました。また、高校生や地域の皆さんと話し合いをしていく中で、たくさんの課題やこれからできることを見つけることができましたので、それらのことを今後の生活で活かしていきたいです。」



3. アンケート（地域関係者）

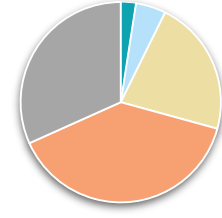
問1 性別

●男	31
●女	10



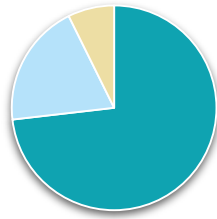
問2 年代

●30代	1
●40代	2
●50代	9
●60代	16
●70代以上	13



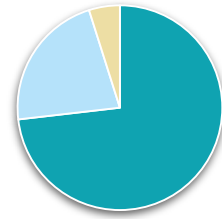
問3 菊池のどか氏の講話はいかがでしたか。

●とても良い	30
●良い	8
●普通	3
●やや悪い	0
●悪い	0



問4 避難所設置訓練（段ボールベッド、ワンタッチパーティションの組み立て）の内容はいかがでしたか。（1つ選択）

●とても良い	30
●良い	9
●普通	2
●やや悪い	0
●悪い	0



問5 学生とのグループワークはいかがでしたか。（1つ選択）

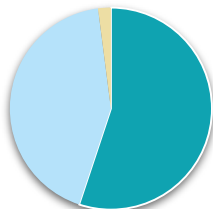
●とても良い	31
●良い	10
●普通	0
●やや悪い	0
●悪い	0



4. アンケート（中学生）

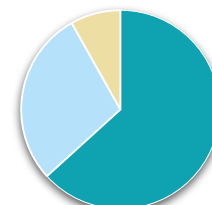
問1 性別

● 男	27
● 女	21
● その他	1



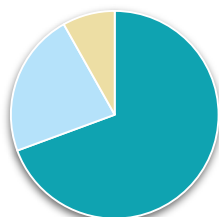
問2 防災ブース体験はいかがでしたか。

● とても良い	31
● 良い	14
● 普通	4
● やや悪い	0
● 悪い	0



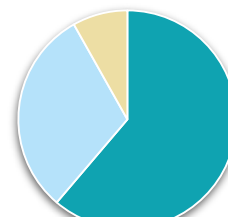
問3 菊池のどか氏の講話はいかがでしたか。

● とても良い	34
● 良い	11
● 普通	4
● やや悪い	0
● 悪い	0



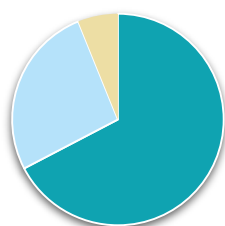
問4 避難所設置訓練（段ボールベッド、タッチパーテーションの組み立て）の内容はいかがでしたか。

● とても良い	30
● 良い	15
● 普通	4
● やや悪い	0
● 悪い	0



問5 高校生や地域の大人とのグループワークはいかがでしたか。

● とても良い	33
● 良い	13
● 普通	3
● やや悪い	0
● 悪い	0



<主な感想>

- ・実際に被災された菊池さんの話を聞いたことは貴重な経験になった。
- ・菊池さんの話では、当時の状況や困難だったこと、何を感じているかお話しいただき、災害に対する理解が深まった。
- ・災害に備えるために事前準備の大切さを改めて実感した。
- ・色々な世代の方々の意見も聞けていい経験になった。

福祉避難所における訓練

1. 概要

亀川地区民生委員児童委員、作業所ボランティア、地域密着型介護老人福祉施設さくらホームと連携し、避難行動要支援者名簿を活用した避難支援や、福祉避難所への移送手順の確認、段ボールベッド等の組み立てを実施しました。

2. 実施風景



亀川小学校防災学習

1. 概要

兵庫県の震災・学校支援チーム（EARTH）より講師を招き、阪神・淡路大震災や地震発生時に取るべき行動、日ごろからの備えについて授業を実施。また、海南市と海南市社会福祉協議会により、アイマスク体験や段ボールベッドの組み立て体験を行いました。

日時：令和5年11月20日（月）13：50～15：25

講師：震災・学校支援チーム 服部 征司氏（神戸市立舞子小学校）

震災・学校支援チーム 小城 宗一郎氏（神戸市立有瀬小学校）

海南市社会福祉協議会職員

海南市危機管理課職員

対象：亀川小学校5年生児童 77人

2. 実施風景



▶EARTH 員による授業



▶社会福祉協議会から「災害時のボランティア活動」について説明

市民一斉防災訓練

1. 概要

南海トラフ地震に備え、全市民対象にシェイクアウト訓練を実施するとともに、津波浸水区域内では津波避難訓練、津波浸水区域外では安否確認訓練等を実施。

日時：令和5年11月12日（日）

想定：午前9時00分 南海トラフ地震発生

午前9時02分 大津波警報発表

内容：○シェイクアウト訓練

○津波避難訓練（沿岸部）

○安否確認訓練（内陸部）

○自宅・事業所内での確認（非常持出品、備蓄品、周辺の危険箇所、家具類の転倒防止策、避難場所及び家族との連絡方法等）

2. 訓練結果

2.1 津波避難訓練参加人数

地区名	参加人数
黒江・船尾地区	422人
日方地区	291人
内海地区	279人
冷水地区	174人
大野地区	75人
亀川地区	278人
下津地区	169人
大崎地区	354人
塩津地区	234人
合計	2276人

2.2 安否確認訓練参加自治会数 : 100自治会・自主防災組織

3. 訓練ポスター、チラシ



きらら子ども園 防災訓練の様子

地震から身を守る「3つの安全確保行動」
まず低く 頭を守り 動かない

令和5年 11/12 日 午前9時開始

訓練1 シェイクアウト訓練

訓練2 津波避難訓練（沿岸部）
安否確認訓練（内陸部）

海南市 一斉 防災訓練

4. 訓練の様子

4.1 津波避難訓練

<藤白地区>



▶高台の神社に避難



▶各自主防災会ごとに集合し、人数を集計

<塩津地区>



▶津波の到来に備え防潮扉を閉鎖



▶高台のお寺に避難し、安否を確認

4.2 地区独自訓練

塩津区防災会では、避難行動要支援者宅への声掛けや、お寺の鐘を使った避難の呼びかけ、防潮扉の閉鎖、津波避難場所での安否確認、無線通信、地区本部での情報収集、避難所設置訓練などを実施しました。また、避難所では、JR 西日本のカメラ AI を使用した避難者人数確認の実証実験も行われ、訓練後には、防災会が企画した研修会や訓練の振り返りも実施しました。



▶避難所設置訓練



▶負傷者への対応訓練



▶JR 西日本によるカメラ AI の実証実験



▶炊き出し訓練の支援をする中学生

防災研修会

自治会・自主防災組織関係者を対象とし、講演動画の WEB 配信による防災研修会開催。

1. 第 1 回防災研修会

講師：菊池 のどか 氏

配信期間：令和 5 年 8 月 31 日～令和 6 年 3 月 31 日

講演内容：いのちてんでんこ

～東日本大震災の教訓を海南市に～

【視聴会】

日時：令和 5 年 11 月 25 日（土）午前 10 時～

場所：海南市役所 3 階会議室



いのちてんでんこ
～ 東日本大震災の教訓を海南市に～

2011 年 3 月 11 日、東日本大震災発生。岩手県釜石市では、多くの小中学生が大津波から避難し、命を守ることができた。この出来事は震災直後から『釜石の奇跡』と呼ばれている。奇跡と呼ばれる避難行動、本当にそれは奇跡だったのか。当時、釜石東中学校の中学生だった菊池のどか氏が、被災経験から得られた教訓を語る。

【写真出典：いわて震災津波アーカイブ／提供者：釜石市】

講師 菊池 のどか 氏

1995 年生まれ。岩手県釜石市出身。釜石市釜石東中学校 3 年生当時、東日本大震災が起こり津波災害からの避難を経験。被災後は語り部活動を始めるが、語ることに違和感を感じ一度防災から離れ、地域文化の保存や鎮生学、地理学等の領域分野について学んだ。大学を卒業後、かまいし DMC に入社し、いのちをつなぐ未来館（震災伝承施設）で震災時の経験のガイドや、防災に関する展示などを制作する職に就き、現在はフリーランスとして語り部や観光ガイドを行っている。

会場 YouTube による
オンライン講演会
パソコン・タブレット、スマホにてご覧いただけます。

視聴期限 令和 6 年 3 月 31 日まで

視聴方法 QR コード及び URL よりご視聴ください。
URL : <https://youtu.be/aZ--gSBva9s>

“いのちてんでんこ”とは？
地震がきたら津波が来る、他人にかまわずでんでんばらばらに一人で逃げろという三陸地方に伝わる言葉です。「自分だけ逃げるわけには」「隣情だ」と言われることもある言葉ですが、いざというときに、連絡がなくても必ず避難していると確信できる信頼関係があるからこそ、自分の命を最優先に避難できるという意味があります。

【主催】 海南市危機管理課 TEL : 073-483-8406 (平日 8:30 ~ 17:15) Mail : kikkanri@city.kainan.lg.jp

2. 第2回防災研修会

講師：楨原 聡美 氏

配信期間：令和5年11月28日～令和6年3月31日

講演内容：西日本豪雨災害の教訓から学ぶこれから

【視聴会】

日時：令和6年1月13日（土）午前10時～

場所：海南市役所 3階会議室



西日本豪雨災害の教訓から学ぶこれから



講師 楨原 聡美 氏

岡山県総社市出身。川辺復興プロジェクトあるく代表。川辺地区まちづくり推進協議会 防災部長。平成30年西日本豪雨災害にて、自宅2階床10cmまで浸水。自宅の再建をしながら、地域の支援活動を始め、川辺復興プロジェクトあるくを結成した。住民のつながりの再構築や、地域に帰ってきた人が安心して暮らすことができるよう、自身の経験をもとに、イメージしやすく分かりやすい防災を発信し、地域の防災力向上に努めている。

会場 YouTube によるオンライン講演会

パソコン・タブレット、スマホにてご覧いただけます。

令和6年3月31日まで視聴可能

視聴 QRコード及びURLよりご視聴ください。

URL：<https://youtu.be/XWaXSeFMuk8>



“平成30年西日本豪雨災害”とは

平成30年6月28日から7月8日の前線や台風第7号の影響による、西日本を中心とした全国的に広い範囲での記録的な大雨。1府10県に特別警報が発表され、各地で河川の氾濫や浸水害、土砂災害が発生し、甚大な被害をもたらした。倉敷市真備町では、8箇所が浸水が決定するとともに、広い範囲で浸水害が発生し、全壊棟数は約4,600棟に上った。

【主催】 海南市危機管理課 TEL：073-483-8406（平日8:30～17:15） Mail：kikikanri@city.kainan.lg.jp

令和5年度 海南市地域防災活動支援事業 実績報告書（亀川地区）

海南市 総務部 危機管理課

〒642-8501 和歌山県海南市南赤坂11番地

電話：073-483-8406 ファックス：073-483-8483

メール：kikikanri@city.kainan.lg.jp